

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



7月20日に笠間公民館で県政報告会を開催しました。満席(500席)で立ち見が出る程大勢の皆様に来場いただき、感謝申し上げます。

4期目の4年間に私が行ってきた議会活動をつぶさに報告し、これから取り組もうとしている政治課題についてお話ししました。

当日は、自民党副幹事長である河野太郎代議士の特別講演があり、原発再稼働における課題と日本のエネルギー政策について、分かりやすく説明されました。(H26年7月)

県立中央病院 産科再開に向けて、院内勉強会を開始

中央病院は平成17年4月に産科が休止となって以来、再開に向けて大学など各方面に働きかけを行ってきました。

こうした中、平成23年3月に筑波大学から婦人科医療の中心を担う産婦人科医師が着任したことを契機に、現在6名の産婦人科医師によりそれまで逼迫していた県央・県北地域の婦人科医療の拠点として充実が図られてきました。

産科の再開には、最低でも産婦人科医師8名が必要ということですが、いよいよその人数に近づきつつあります。

このため中央病院では、あと2人の医師の確保に全力を傾けるとともに、産科再開に必要な新生児科や麻酔科の医師確保の他、再開に向けた諸課題を整理検討するため、院内での勉強会を開始しました。

【検討内容】

産科再開に向けた諸課題の整理

院内体制、必要人員やその研修方法、必要機器及び予算額など

常井洋治コメント

私は、中央病院の産科再開と小児科の充実を一貫して主張してまいりました。この悲願とも言える課題に果敢に取り組んで来られた橋本知事、永井病院長はじめ関係者の皆様の熱意に感謝します。実現まであと一步です。私も引き続き頑張りますが、皆様のご支援を切にお願いいたします。



地元笠間市を元気に！ とこい洋治が皆さんとがんばる

水戸土木事務所との勉強会で進行状況をチェック (H26年6月19日)

道路関係

① 宍戸橋の早期架替及び大洗友部線(橋爪)の整備促進(今年度: 10,000千円)

L=540m W=11~13/6.5 (大洗友部線)

- ・宍戸橋の架替については、大洗友部線の道路計画と涸沼川の改修計画と調整を図りつつ大洗友部線の拡幅工事(歩道整備を含む)を先行させる。
- ・昨年度は、大洗友部線の道路予備設計を実施し、これを基に計画説明会(平成25年12月)を開催した結果、概ね出席者の了解を得ることができた。
- ・今年度は、道路詳細設計や地質調査を実施し、設計完了後に説明会を開催予定。

② 稲田友部線(本戸)の整備促進(今年度: 5,000千円)

L=2,260m W=11/6m

- ・平成25年度までに全体延長2,260mのうち、市道タッチから友部側まで約1,700mの整備が完了。
- ・今年度は、笠間市へ旧道を移管するための修繕工事を実施。

③ 富谷稲田線(稲田)の整備促進

L=2,100m W=10/6m

- ・幅員狭小区間の早期解消を図るため、用地測量等の調査を実施する。

④ 平友部停車場線(大沢跨線橋~県立こころの医療センター前まで)(今年度: 10,000千円)

L=980m W=16/6.5m

- ・平成25年度は、大型補正予算により畜産試験場跡地の約180m区間の道路改良舗装工事を実施済み。
- ・今年2月、計画説明会を実施し、概ね出席者の了解が得られたことから、今年度は用地測量を実施する。

⑤ 杉崎友部線の整備促進

ア) 南友部地区の整備(今年度: 25,000千円) L=700m W=10/6m

- ・事業用地の一部を土地開発公社資金の活用と工事承諾(借地)により、工事を先行させて、平成22年度に整備が完了。
- ・昨年度までに、土地開発公社資金の借り入れに対する返済を完了させており、今年度は、工事承諾で整備した笠間市所有の土地を買収する。

イ) 小原地区バイパスの整備 L=1,600m W=14.5/6m

- ・これまで土地開発公社資金を活用して創設換地分の用地を取得している。(H23・24年度で返済)
- ・今年度、南友部地区の整備(土地買収)が完了することから、平成27年度以降は、当地区に着手できる見込み。

⑥ 茨城中央工業団地笠間地区、総合流通センター関連道路の整備促進

石岡城里線バイパスの整備促進

- ・総合流通センターの開発計画の進捗を踏まえながら、整備方針を検討する。

⑦ 上吉影岩間線(下郷地区踏切の整備)の整備促進(今年度: 5,000千円)

L=160m W=8.5/5.5m

- ・JRとは、踏切東側の道路拡幅(歩道設置)の整備が完了後に、踏切拡幅を実施することで協議済み。
- ・事業分担は、測量・設計及び工事は県、用地取得は笠間市が対応する。
- ・昨年度は、沿線住民の方に道路計画を説明し、概ね了解が

得られたため、現在、道路設計及び用地測量等を実施中。
・今年度は、道路設計の成果を基に設計説明会を開催し、その後、用地買収に着手する。

⑧ 国道355号笠間バイパスの整備促進(今年度: 251,000千円)

L=5,200m W=18/6.5m

- ・平成25年度までに全体延長5,200mのうち、約2,960m(手越L=660m、来栖L=680m、石井L=1,620m)が供用済み。
- ・現在、涸沼川に架かる橋梁工事や前後の道路改良舗装工事を行っており、今年中に笠間市道来栖本戸線から県道笠間つくば線までの約900m区間の供用を図る。
- ・県道笠間つくば線からJR水戸線を跨ぎ、芸術の森公園入り口付近までの約1,300m区間については、約9割の用地を取得しているが、残る用地の取得についても、引き続き行っていく。

⑨ 国道355号バイパス新宍戸橋の耐震補強工事(今年度: 61,500千円)

- ・緊急輸送道路としての位置づけであるため、新宍戸橋の耐震補強工事を実施する。



▲水戸土木事務所での勉強会は毎年続けている。小泉恵三所長(左奥)はじめ幹部の皆さんに地元笠間市の県道・河川整備へ予算措置を要請した。(H26年6月)

河川関係

⑩ 涸沼川の改修事業の促進(宍戸橋近辺の未改修部分の早期改修)(今年度: 50,000千円)

- ・JR常磐線より宍戸橋までの680mについては、主要地方道大洗友部線の整備と連携し、河川の付け替えを行う。
- ・今年度は、大洗友部線が近接する区間の河川改修工事を行う。右岸L=160m 河道掘削、築堤、護岸整備

⑪ 涸沼川の改修事業の促進(旧笠間市街地内のふるさとの川整備事業の推進)(今年度: 10,000千円)

- ・柳堰の改築については、代替えの取水施設を整備し固定堰を撤去することにより、出水時の流下能力の向上を図る。
- ・今年度は、受水槽を設置する。
- ・来年度以降、ポンプの設置、護岸の整備を行い、堰を撤去する。

⑫ 涸沼前川の土砂撤去

- ・平成21~25年度において、小原地区の江戸橋から谷津田橋までの1.5km区間のうち、960mの土砂撤去を実施済み。
- ・今年度は、150mの土砂撤去を行う。

⑬ 間黒川の土砂撤去

- ・平成22~25年度において、箱田地区の第4用水機場区間~

くみに橋700m区間のうち、500mの土砂撤去を実施済み。

・今年度は、100mの土砂撤去を行う。

⑭片庭川の改修事業の促進(今年度:20,000千円)

・箱田地区圃場整備に伴う創設換地を取得する。

⑮桜川、随光寺川の土砂撤去

・平成20~25年度は2kmの土砂撤去を実施済み。

・今年度は、流下阻害となっている堆積土砂の撤去を行う。

⑯枝折川の土砂撤去

・今年度は、高橋から上流150m区間のうち、50mの土砂撤去を行う。



▲土地改良区の皆さんの依頼で、友部二中の側を流れる枝折川の竹木の伐採を実施した。スッキリして生徒も安全だ。(H26年6月)

県央農林事務所土地改良部門との勉強会で推進要請(H26年7月3日)

(単位:千円)

事業名	地区名	工期	全体		H25年度 迄進捗率	H26年度	
			事業量	事業費		事業量	執行額
かんがい排水 (用水路、排水路)	霞ヶ浦用水Ⅲ期	H 5 H31	用水路11km	1,200,000	74%	用水路1.6km	202,000
畑地帯総合整備 (区画、用水路、農道)	小原	H 7 H27	農道1.2km、暗渠10ha 区画整理70ha	1,259,000	98%	付帯工1式	15,000
経営体育成(水田) (区画、用水路、農道)	箱田中央	H16 H28	区画整理48ha	1,599,400	94%	付帯工1式	50,000
	滝川	H18 H27	暗渠排水19ha 区画整理22ha	848,800	93%	道路付帯工1式	20,200
経営体育成(水田) (用水路、排水路、農道)	友部小原	H22 H27	用水路152ha 排水路4km、暗渠152ha	960,200	65%	用水機場1ヶ所 用水路32ha	155,600
	北川根	H25 H30	用水路120ha 排水路2km、農道3km	902,000	2%	用水機場1ヶ所 用水路22ha	114,600
農村振興総合整備 (農村の生活環境整備)	友部(全域)	H16 H27	農道4km、集落道路1km 活動拠点施設1ヶ所	956,700	98%	用地買収1式	6,400
農業集落排水 (農村の下水道)	友部北部Ⅱ期 (小原、鯉淵、五平)	H25 H30	管路16km	1,614,000	14%	管路4km	150,000
農業生産基盤整備 (区画、排水路)	大古山	H24 H28	区画整理6ha	255,000	90%	調整池整備1式 排水路2km	91,000
計	9地区			9,595,100			804,800

総務企画委員会(要約)(H26.6.11)

- 笠間市も含む消滅可能都市への対応策を
- 県職員の結婚対策に世話焼きを
- 子ども・子育て支援新制度で保護者負担増の回避を
- 畜産試験場跡地は単なる企業誘致に使うべきではない
- 畜試跡地に隣接する航空無線所の移転検討を

常井委員

先日、日本創成会議が発表した将来推計人口によると、若い女性の減少により県内44市町村のうち笠間市を含む18市町村が2040年までに消滅の可能性があるとしている。この結果を受けて、県ではどのように対応等していくのか。

福田総務部長

推計結果は非常に衝撃的なものであった。働く場の確保や出会いサポートセンターによる結婚支援など総合的な対策が必要であり、来年度の予算編成に向けて検討すべき課題であると考えている。

常井委員

少子化対策は、まず足元である県庁内から取り組むべきだ。上司が部下の結婚の世話を焼くなど、杓子



◀農地と農村の着実な整備を佐藤久司県央農林事務所土地改良部門長(真ん中)に要請。(H26年7月)

定規に考えず県職員の結婚対策に取り組んで欲しい。

福田総務部長

セクハラに受け取られかねないなど、非常に繊細な問題。対策は非常に難しいが、課題を把握していきたい。

常井委員

平成27年度に「子ども・子育て支援新制度」がスタートする予定。新制度における幼稚園等の保護者負担は「応能負担(所得に応じた負担)」ということであるが、現在よりも保護者の負担が増えることが無いよう国へ要望すべきである。また、新制度は複雑で分かりづらいため、保護者や事業者に対して十分に周知すべきだ。

吉田私学振興室長 現行の幼稚園児が、新制度において保育認定（保育を必要とする事由に該当）されるとともに保護者が高収入の場合などは、条件によって負担が増える可能性がある。市町村が行う説明会等に職員を派遣し、説明を行うことなどにより制度の周知を図っていく。

常井委員 畜産試験場跡地は県の財産であり笠間市や県央地域振興の種地である。同跡地の利活用は「県立中央病院と県立こども病院を同跡地へ移転し、県立こころの医療センターを含めた県立3病院を集約して、本県の医師不足にも対応して有効に活用する『医師養成センター構想』』というのが私の持論であり、単なる企業誘致に使うべきでは

ない。

野口企画部長 具体的な利活用の方向性は決定していないが、できれば県全体や県央地域の振興に資する土地として利活用していきたい。

常井委員 県立こころの医療センターに隣接する、航空無線通信所（約27.8ha）の土地の利活用についても、県は笠間市と一緒に夢のある企画を模索すべきだ。

野口企画部長 同通信所の移転は代替用地の面積や形状の点から難しい状況にあるが、同地の利活用については、短期的な視点ではなく、何が地域にとって望ましいかという視点で今後も取り組んでいく。



▲笠間市内のイノシシによる農作物の被害は平成25年度10,895千円。獺友会の皆さんを中心に消防団と同じ特別公務員の鳥獣被害対策実施隊（大須賀正弘隊長）を発足した。（H26年5月）



▲随分附の枝折川の竹木伐採、たい積土砂の撤去やえん堤崩壊箇所改修の件で、土地改良区役員の皆さんから要請があり、現地調査を実施。（H26年5月）—水戸土木事務所対応後の状況はP3参照



▲全国高等学校合気道演武大会（笠間市で開催、39校、約500人が参加）で武道の授業で合気道を習っている岩間中、福田中の皆さんが稽古の成果を披露した。（H26年8月）



▲第33回笠間の陶炎祭（ひまわり）の土面コンクールでは、飯村富雄さんが県知事賞に輝いた。（H26年4月）



▲筑波海軍航空隊慰霊祭のあとの懇談会は、初めて記念館（こころの医療センター内）で開催された。左から友の会会長高野克己さん、桑島七郎さん、元特攻隊員柳井和臣さん。（H26年5月）



▲県高校野球大会を前に友部高校野球部（部員9人）の壮行会が行われた。父兄もOBも参加する良い伝統があった。（H26年6月）



▲岩間グラウンドゴルフ大会（藤枝好博大会長さん）では、雨模様の天気も気にせず熱戦が繰り広げられた。（H26年7月）



▲県アームレスリング選手権大会（磯野武夫実行委員長さん）が笠間ジャスコで開催された。屈強な体格の男性に交じてたくさん若女性も腕自慢を披露した。（H26年6月）



▲宍戸小学校の運動会で前年優勝旗を返還する6年生の北村昂君。（H26年5月）



▲岩間神信合気修練会（斎藤仁平塾長）は、創立10周年の記念演武大会を明治神宮にて開催した。（H26年6月）



▲道の市では、大正時代に笠間駅から稲荷神社間を運行していた「人車」が、原寸大で復元された。早速大嶋元則実行委員長さんたちと試乗。（H26年6月）